

# トリアージ 訓練で確認

西宮・兵庫医大病院

1/15 神戸(朝) 22面



病棟前に運び込まれた患者役のトリアージを行う医師や看護師ら＝西宮市武庫川町

大震災などを教訓に2002年から毎年訓練を実施。05年の尼崎JR脱線訓練開始から数分後、

患者約40人が、救急車や乗用車で病棟前に搬送された。招集された医師や看護師が「どこが痛みますか」「歩けますか」と声を掛け、重症度に応じた赤や黄色のトリアージタグを装着。患者の誘導が飛び交い、事務職員らが手分けして患者を処置室や待合室に運んだ。同病院の大城力良院長は「情報整理で混乱もあったが、訓練は体で覚えるもの。本番に備えて問題点の確認を」と講評した。

(岩崎昂志)

大規模災害を想定し、多くの患者を受け入れる訓練が14日、西宮市の兵庫医科大病院で行われた。医療スタッフや学生、消防隊員ら計約200人が、治療の優先度を決める「トリアージ」の手順や、重症度に応じた治療体制などを確認した。同病院は、阪神・淡路

# 医師の卵トリアージ訓練

## 兵庫医科大で50人参加

H23  
1/15 読売(朝) 33面



トリアージ訓練で、負傷者の脈拍や呼吸をたしかめる学生ら（西宮市の兵庫医科大で）

兵庫医科大（西宮市）は14日、災害時を想定し、負傷者の傷や症状の軽重で治療の優先順位をつける「トリアージ」訓練を行った。

救命救急の実習で、毎年夏と、阪神大震災前のこの時期に実施しており、同大学医学部の4年生約50人が参加した。

列車の脱線事故で多数の負傷者が運ばれたという想定で、医師役の学生が3人1組となり、患者役の学生の意識や呼吸、触診で傷の程度を確認。呼吸のない者には黒、呼吸はあるが呼びかけに応じない者には赤色、歩ける者には緑色など、色違いのタグを患者に渡していった。

参加した烏野侑子さん(22)は「けがの程度や症状が違う大勢の患者から求め

られている中で、冷静に優先順位を判断するのはすごく難しい。スムーズに対応するために、訓練を重ねたい」と話していた。

トリアージは阪神大震災以降、国がタグを標準化し、全国で仕組みが整えられた。同大病院では、2005年4月のJR福知山線脱線事故直後、運ばれた人が約1000人に対しトリアージを実施した。

読売新聞 2011年1月15日付

神戸新聞 2011年1月15日付